

2018.7.1 第167号 ながの 社会福祉士会 NEWS

■発行：公益社団法人長野県社会福祉士会
 会長：萱津 公子
 ■編集：広報編集委員会
 ■事務局：〒380-0836
 長野市南県町685-2 長野県食糧会館6F
 ■発行部数：2,330部
 ■TEL：026-266-0294
 ■FAX：026-266-0339
 ■E-mail：info@nacsww.jp
 ■HP：http://nacsww.jp/

目次

■地域共生社会に向けて社会福祉士に求められる実践力とは	1	■特集 新人さんいらっしゃい	6~7
■平成30年 福祉まるごと学会	2~3	■東信地区学習会	8
■福祉まるごと学会アンケート集計結果	4	■リレーエッセイ~リレー形式の寄稿~	8
■【報告】2018年度 都道府県ばあとなあ連絡協議会	5	■今後の予定	8
■信州ぐるっと!!	5	■編集後記	8

Nagano Association Certified Social Workers

地域共生社会に向けて社会福祉士に求められる実践力とは ～ 包括的相談支援体制づくりと地域支援に必要な専門性～

平成30年6月9日(土)、長野市更北公民館において平成30年度福祉まるごと学会が開催され、187人が参加して、5領域13人の実践研究発表が行なわれた。その後、総括シンポジウムとして、地域共生社会の実現に向けて、求められる専門性や視点について、それぞれの立場からコーディネーターとシンポジストより提言がなされた。

総括シンポジウム



端田 篤人氏 (シンポジスト)
長野大学社会福祉学部准教授

今後多様な専門職や地域住民が「支え手」になるとすれば、現場ではソーシャルワークの価値に基づかない支援が展開される恐れもある。これからの社会福祉士には、多様な「支え手」とソーシャルワークの価値を共有できるような働きかけ、エンパワメント志向に基づくアドボカシー実践が地域で展開できるよう、戦略的に社会変革スキルを発揮していくことが求められる。



川島 良雄氏 (コーディネーター)
長野大学社会福祉学部長・教授

地域共生社会に求められるソーシャルワーク援助技術は必要条件である。ジェネラリストの視点で、社会福祉士はコミュニティーソーシャルワーカーとしての力量を高めるべき。



鈴木 忠義氏 (シンポジスト)
長野大学社会福祉学部教授

「社会的排除」の場でもある「地域社会」の問い直し、労働市場への再参入の困難性も踏まえての居場所の確保。地域の福祉力の向上、福祉課題の解決を地域で引き受けていくことを目指す。「我が事」の意識は、当事者意識の醸成が必要である。ネットワークを広げることや、問題意識の共有が大事である。



熊本 圭吾氏 (シンポジスト)
長野保健医療大学教授

「我が事・丸ごと」の地域づくりにこそソーシャルワーカーの配置が必要だが、既存の制度やサービスの範囲を越えて「つながり」をつくるのが難しい。さまざまな関係者をつなぐには対話すなわち相談援助が不可欠。「共感的理解」は「少数派や例外的状況に対する配慮と想像力」でもあり少数者の社会参加にもつながるのではない。

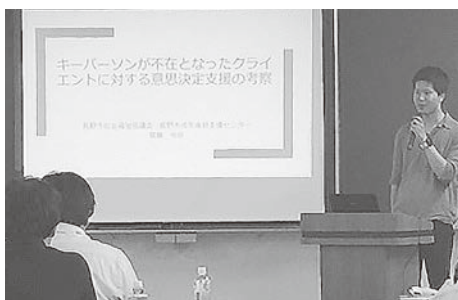


萱津 公子氏 (シンポジスト) 長野大学社会福祉学部特任教授

社会福祉法人は、地域共生社会への道を開く事業の中心的役割を担っていく。「サイレント・ブア」の状態にある対象者を地域で支える支援体制は、ソーシャルワーク機能を活用し、専門職、地域住民等の関わりで、地域におけるセーフティネットを強化していく。ネットワークづくりから始まるイノベーション「それまでとは異なった仕方でも新結合する」(J. A. シュンペーター)という創造的発想が、福祉経営者や社会福祉士にも求められている。

《権利擁護》

- ◎キーパーソンが不在となったクライアントに対する意思決定支援の考察（齋藤 伶那）
- ◎虐待問題研究会における事例検討を通じての考察（大谷 庄司）
- ◎権利擁護ネットワーク構築への取組と求められる視点（原 智美）



家族構成の変化により、意思決定支援につなげることができたという事例では、クライアントの状況の変化に対する気づきの大切さを考えさせられた。

「虐待通報」が「相談・要望」として不適切に処理されている実態から、事実を共有し顕在化させることの必要性からさまざまな分野の専門家とのネットワークを構築したという報告があった。また「このまちで、その人らしく暮らすことができる」地域を目指すため、可視化された情報共有シートの作成により早い段階での対応ができる。個別の事例を通して必要な機関と連携に心がけているという報告からは、地域におけるネットワーク構築の必要性を改めて考えさせられた。

《相談援助》

- ◎望む生き方＝望む死に方への共感 ～ALS患者とのかかわりを通して～（西牧 俊介）
- ◎自立支援と専門職のジレンマ ～心の葛藤～（松澤 広美）

この領域では、揺れ動く本人や家族の思いに寄り添いながら、その人らしい生のあり方に向き合っていくこと、自らの価値観にとらわれることなく、さまざまな選択肢から自己決定してもらえるよう支援していくことの重要性について、その人らしい生活とは何か、と悩みながら、今までの生活歴から本人の価値観を理解し、先入観を持たず、価値観に合わせたかかわりや本人への伝え方や表情、言葉、話すトーンにも配慮し、本人の視点に立った支援についての発表があった。「生」と「死」の選択への介入や本人の望む暮らしと支援者の感じる課題について、とても興味深く、考えさせられる内容であった。本人の思いを共有し、本人の選んだ生活を支えるチームづくりについても共通してお話があり、改めてチーム支援の大切さを感じた。



《地域支援》

- ◎長野県における生活支援コーディネーターの現状と今後の発展について（平塚 直也）
- ◎認知症を抱えながら地域で安心して私らしくすごせますか
～認知症地域支援の取り組みから～（進藤 竜一）
- ◎児童発達支援の現状と課題 ～保育所等訪問支援を通して～（神原 久美子）



地域共生社会の実現に向けた地域支援の発表では、まず高齢者を主対象者とした生活支援コーディネーターの配置や、その機能を活かすための課題提起がなされ、業務の明確化や養成研修の実施などの必要性が話された。

さらに実践報告として、認知症を抱える方が地域で暮らすための取り組み事例や、障がい児に対する保育所等訪問支援の取り組みについての発表が行われた。それぞれ支援領域は異なるものの、地域へ出向くことでご本人の思いをくみ取り、課題を抽出し、地域住民や支援する関係者への理解を求めるためのアプローチを行っている点は共通しており、個人を取り巻く関係機関への連携の重要性を感じた発表であった。

《福祉経営》

◎これからの福祉（介護）をどのように経営するのか（小林 俊之）

◎外国人介護士との協働による日本の介護

～深刻な日本の介護人材不足は解消できるか～（青木 靖志）

この領域ではこれからの福祉（介護）経営をするための課題と、介護人材の人手不足の解消について事業所の経営者と外国人介護士の受け入れ施設から実践研究発表があった。

歴史の浅い介護業種が販売業種等の他業種と肩を並べる仕事に成長していくためには、介護従事者とその所属組織とが、目指すサービスのあり方を同じくし、そのうえで自身の役割を発揮することが大切であること、外国人介護士の定着が人手不足を解決する一助を担う方策になるための提案や介護ロボット、AIの開発・導入、ICT機器の開発・普及についても期待が寄せられた。



《実践研究》

◎被後見人等のストレングスに着目したチーム支援について（守屋 幹雄）

◎地域共生社会の実現に向けたソーシャルワークの役割

～地域づくりから考える「我が事」感の意識の醸成～（山崎 博之）

◎地域生活定着支援センターにおける累犯障がい者の福祉支援（石川 貴浩）

第5領域「実践研究」では、3人の発表者からそれぞれの実践をもとにした研究発表が行われた。テーマ「被後見人のストレングスに着目したチーム支援」および「累犯障がい者の福祉支援」の発表では、それぞれ支援がうまく進まない困難ケースであり、支援チームでの情報共有や関係機関との連携・協働によって、本人にとってよりよい支援ができたことについて語られ、またテーマ「地域共生社会の実現に向けたソーシャルワークの役割」では、平成30年4月改正の社会福祉法を踏まえて、地域住民や実践者の現状や思いについて聞き取った調査結果について発表がなされた。会場内は活発に質疑応答が行われ、有意義な実践発表になった。



“奨励大賞・奨励賞 受賞者の紹介”

今回の実践研究発表は、初の試みとして、奨励大賞と奨励賞の授与が行われた。そこで受賞した皆さんに一言ずついただいた。



（奨励大賞受賞者 西牧 俊介 さん）

今回、初めて事例研究を行った。趣深いケースを選び、まとめ方講座も受講して、今まで以上に内容を掘り下げられ、振り返ることができた。今後活かせることもでき、課題も明確になった。

（奨励賞受賞者 山崎 博之 さん）

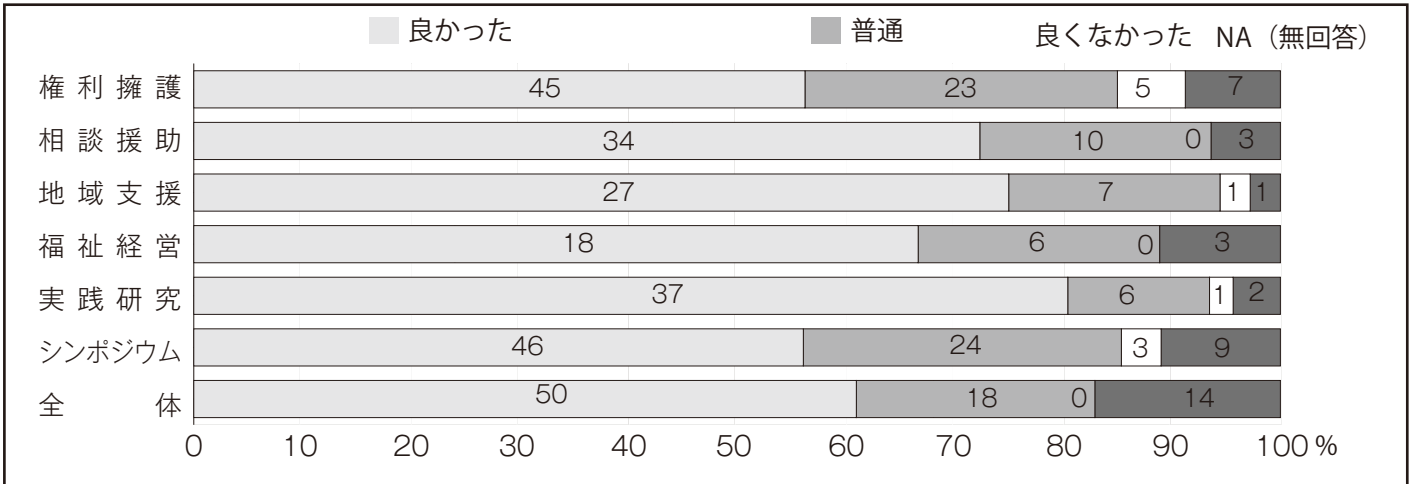
嬉しい。基礎研修の成果が出せた。地域共生社会は関心の高いテーマだったと思う。社会福祉士だけではなく、異業種や地域の方とも協働していきたい。

（奨励賞受賞者 石川 貴浩 さん）

いただける程の内容だったかなあ…。もっと社会福祉士としてふさわしい実践ができるよう、今後も努力していきたい。

福祉まるごと学会アンケート集計結果

■学会参加者：187人 □アンケート協力者：82人（回収率：43.9%）



【権利擁護】

- ・意思決定能力レベルの確認と、本人に合わせた課題の整理を、その時々で行っていく大切さが良くわかりました。
- ・虐待の客観的認知が困難だとわかった。
- ・行政の目線から地域の中でのネットワークについて考えていくことができました。

【相談援助】

- ・本人の思いと支援者の思いとの葛藤というポジションを考えさせられました。
- ・「死」・「生」へのアプローチの難しさを改めて感じました。
- ・支援者側の価値観で考えず、まずはクライアントを理解することが大切だと学ばせていただきました。

【地域支援】

- ・生活支援コーディネーターについて、実施状況がわかった。
- ・認知症の方が地域で暮らすための可能性がよりわかった。
- ・専門外のケースで理解できるか…と思いましたが、わかりやすく伝えていただけた。

【全体の感想】

- ・ソーシャルワーク実践における権利擁護、相談援助、地域支援、福祉経営、実践研究の5領域の事例や実践内容について見聞し、ソーシャルワークの価値と役割について再度深く考えさせられた。
- ・知識不足で理解できていない内容もあったが、福祉職の皆さんの発表や意見を聞くことで、また自分では思いつかなかった考えが生まれたので、参加してよかったと感じている。

【福祉経営】

- ・福祉の仕事を商売と考え商品価値を高めるという、普段とは違う視点から捉えるのも面白い考えだと思った。
- ・外国人介護福祉士への対応や現状がわかり、参考になった。日本人の介護福祉士に良い影響が出ることも分かった。

【実践研究】

- ・困難事例を多職種連携を通して、本人のストレングスの部分に着目した支援がとても参考になった。
- ・地域福祉について、共生社会を重視していることがわかった。
- ・困難事例含め、すぐに受け入る資源探しを考えてしまうが、支援者側の姿勢が大切だと学びました。

【シンポジウム】

- ・発表者への講評があったので、聴けなかった発表内容も間接的にわかりよかった。
- ・地域共生社会の概要やシンポジストの視点から、現状の確認や今後の方向性および課題が見えてきた。
- ・各発表で地域共生社会のこと等を深く考察されていて、より深く考える事ができた。

平成30年度 定時総会

平成30年度定時総会は、長野市更北公民館にて、福祉まるごと学会終了後開催した。冒頭、萱津会長は「社会福祉士は資格を持っていれば良いのではなく、研鑽を続け、力を伸ばしていくことが必要。ソーシャルアクションの場として、今以上に会に参加して欲しい」等、強調して挨拶した。総会には書面表決・委任状を含め640人出席との報告後、議長に金井佑樹会員を選出。平成29年度事業について報告後、議決案件の平成29年度決算が承認された。その後、平成30年度事業計画・収支予算、公印管理規程、権利擁護センターぱあとなあ名簿登録規程、謝金・旅費等支払規程が報告され、総会は終了した。

【報告】2018年度 都道府県ぱあとなあ連絡協議会

日時：2018年5月26日～27日／会場：東京文具共和会館／報告：宮本雅透・虐待対応委員長

協議会の趣旨(権利擁護の推進／ソーシャルアクション)

- ① 権利擁護センターぱあとなあは、後見活動（成年・未成年）や虐待防止にとどまらず、広く市民の権利を擁護する活動拠点としての役割に期待。
- ② 成年後見制度利用促進体制整備を踏まえ、社会福祉士の取組みや今後の権利擁護センターぱあとなあのあるあり方等を取り上げ、社会福祉士の果たす役割を考える。
- ③ 都道府県社会福祉士会と日本社会福祉士会の権利擁護センターぱあとなあが連携、協力して事業を推進するため、各地域の権利擁護実践と諸課題について全国的な協議を行う。
※ この協議会は、権利擁護センターとして虐待対応と成年後見・ぱあとなあ合同での開催で2回目。
本会から春原伸行・比田井直樹両会員が出席

重要な報告・意見(社会福祉士の専門性を発揮)

- 成年後見制度利用促進法の中で、ますます社会福祉士の役割が期待される。アンテナの高い専門職として、どの機関にいても、権利擁護を担う専門職としての期待はあり、同時に“質の担保”も必要。
- 中核機関の設置に向けて、各自治体での動きが始まっている。社会福祉士は、身上保護面のプロであるという専門性を尊敬している。ぜひ、各地で権利擁護の取組みを推進してほしい。
- 制度はめまぐるしく変化している。国としても現場の声を聴いて報酬改定等に取り組んでいる。例えば、虐待等の緊急事態の際に障がい者をショートステイで受け入れ、5%の定員超過をした施設に減算というペナルティではなく、期間を定めた「加算」を設けた。情報をきちんとキャッチし、専門職チームや現場の社会福祉士が虐待対応を担ってほしい。
- 調査結果に出てくるものは、市町村が虐待通報・相談として認識したもの。まだまだ、数字に表れていない事案が多くある。権利擁護として各地で虐待対応を推進してほしい。
- “中核機関”の役割や機能をそれぞれの社会福祉士が共有し、権利擁護という共通言語で、地域づくり・ソーシャルアクションを展開する必要がある。

(詳細は、ぱあとなあ広報紙確認を。資料は、日本社会福祉士会 HP からダウンロード可能)

信州ぐるっと!! ～県内の特色ある福祉活動を紹介～

「音楽をなりわいとして」

特定非営利活動法人ケ・セラ 代表 西村 昭太

当法人では大きく6つの事業を行っており、小さなお子さんから100歳を超える方のケアマネジメントまで幅広く福祉活動を行っています。

特に中心としているのは就労継続支援B型事業所で、音楽活動により障がいをもつ利用者に賃金をお支払いする共同作業所です。利用者は日々演奏の練習を行い、演奏会開催による収入がお給料となるのです。活動を始めて16年になる団体ですが、多い時には年間50本以上の演奏会をこなし、ダブルヘッダーということさえありました。利用者の紡ぎ出す音楽は、再現するという価値観においては不十分かもしれませんが、唯一無二の音色が紡ぎ出されるのです。

こうした音楽を仕事にしているB型事業所は、国内では当法人を含めて2か所しかありません。

近年は音楽以外にも、絵画やそうした作品をベースとした製品づくり、さまざまな作業にも取り組んでいます。

私たちのこの活動は、皆さまからのご依頼があり成立しています。ぜひ一度、当楽団に演奏会をご依頼ください。



新人さんいらっしゃい

所属：小諸市役所 民生部
厚生課 保護社会係

氏名：中嶋 あゆみ

職種：生活保護ケースワーカー

業務内容：生活に困窮する市民の健康で文化的な最低限度の生活と自立を支援するために、行政のソーシャルワーカーとして働いています。



① 座右の銘・好きな言葉

「一期一会」

利用者との出会いは一期一会。その人の人生の一部分に関わったにすぎません。一つひとつの出会いを大切に、自分がその時できることを精一杯できれば良いな、と思っています。

② 社会福祉士を志した理由

大学の恩師から、「ソーシャルワーカーは人々の辛い時に寄り添い、解決したら気づかれないようにそっと離れる職業」と言われた時、スーパーマンみたいでカッコいいな、と思ったからです。

③ 社会福祉士の意気込みや抱負

昨年転職して、長野県に来ました。人が住んでいる場所ならどこでも社会福祉士のニーズはあるはず！と思っているので、これまでも大切にしてきた「人々の生活を豊かに捉える視点」をもっていきたいです。それに加えて、まだまだ地域の社会資源や支援者の皆さんの顔が見えない部分があるので、積極的に外に出ていきたいな、と思っています。

④ 社会福祉士会に期待すること

これまで、社会福祉士会へは加入していませんでしたが、今回転居したことをきっかけに加入することに決めました。社会福祉士として、これからも頑張っていくために、たくさん勉強をさせていただければと思っています。よろしくお願いいたします。



所属：北信教育事務所

氏名：坂巻 通子

職種：スクールソーシャルワーカー

業務内容：いじめ、不登校など学校でいろいろな困りごとを抱えている子どもと家族を支えるための専門職です。



① 座右の銘・好きな言葉

私が好きな言葉は「なんとかなる」です。中学校の時、体操部に入部した私は人見知りで先輩や同級生とコミュニケーションがうまくとれませんでした。そんな私に顧問の先生がかけてくださった言葉です。この言葉のおかげで、難しく考えず、ありのままの自分で一步を踏み出し、受け入れてもらった経験は私にとって大きな自信になりました。

② 社会福祉士を志した理由

子どもが好きで、将来は子どもに関する仕事に就きたいと思っていました。大学で児童福祉について勉強していくうちに、子どもが日常生活を営むのに支障がある場合の多くは、大人になり歳を重ねても同じように問題が継続することに関心をもちました。そこで、まずは専門的な知識や技術を身に付け、社会福祉士として多くの問題に対して助言や援助を行えるようになりたいと考え、社会福祉士を志しました。

③ 社会福祉士の意気込みや抱負

現在スクールソーシャルワーカーとして勤務させていただいていますが、学校現場における子どもたちの諸問題は、多様化、複雑化しています。例えば児童虐待や貧困、発達障がいなど、本人やその家族だけで問題を解決することは難しいと考えます。そんなときに、社会福祉士として福祉の知識を生かして本人、家族にとって必要な制度やサービスなどを環境面から支援していきたいと思っています。

④ 社会福祉士会に期待すること

私は大学卒業とともに社会福祉士の資格を取得しましたが、実際に資格を活かして仕事をした経験はわずかありません。ですので、研修にたくさん参加したいです。特にスクールソーシャルワーカーの需要が高まっているので、スクールソーシャルワーカーに関する研修の充実をお願いします。これからも私のような人間にも、多くの手を差し伸べていただける会であればよいなと感じています。

社会福祉士国家試験合格おめでとうございます。そして、長野県社会福祉士会に入会いただき、誠にありがとうございます。私たち先輩会員は、入会を楽しみにしていました。

今号では、入会したての会員の皆様から、社会福祉士を志した理由、意気込みや抱負、社会福祉士会に期待することについて聞かせていただきました。寄稿者の皆様、新入会員の皆様のこれからの活躍に期待しましょう!!

所属：伊那市社会福祉協議会

氏名：新美 亮介

職種：地域福祉コーディネーター

業務内容：地域の福祉課題について住民の主体的な助け合い活動の組織化や関係者のネットワークづくり、新たな福祉ニーズについての調査および支援のための地域福祉活動の企画、実施、評価。



① 座右の銘・好きな言葉

「向き不向きよりも、前向きに」

あたり前のことではありますが、自分の好きなことも嫌いなことも、得意なことも苦手なことも、さまざまな事柄に対して、誠心誠意取り組み、正面から向き合いたいと思っています。常に向上心を持ち、前傾姿勢で生きていきたいと思っています。

② 社会福祉士を志した理由

小さい頃から人との出会いにとっても恵まれてきました。人と関わることが好きになり、将来は人と関わる仕事に就きたいと考えるようになりました。多くの方々とお出会う中で、さまざまなバックグラウンドを抱えた方々に対して、自分ができることは何だろうと考えた時に、個人や、個人を取り巻く環境などに多面的に支援を行ったり、その方が必要としている資源とつないだり、新たに生み出すことができる、社会福祉士を志しました。

③ 社会福祉士の意気込みや抱負

社会福祉士の資格を取り、早7年。今まで、児童養護施設で3年間、県立の少年自然の家で4年間、働いてきました。その中で大切にしていたことは「現場」です。現場での人と人との関わりこそが、すべての始まりだと考え、多くの現場に出て、多くの方と関わり、多くの時間を共有してきました。これからも現場や、そこで出会う方々との時間やつながりを大切に、専門職として仕事に取り組みたいと思います。

④ 社会福祉士会に期待すること

常に最善の方法を、地域住民の方に提供できるよう学んでいきたいと思っています。その中で、それぞれの現場の最前線で働いている諸先輩方と意見交換・交流させていただくことは視野を広げる上で、大変重要だと考えています。そのような機会を多く設けていただけたらと思います。

今後ともご指導、よろしくお願いいたします。

所属：中信社会福祉協会 梓荘

通所部 つのかげの里

氏名：押澤 利彦

職種：生活支援員

業務内容：身体・知的・精神等に障がいをもつ皆さんのための生活介護の現場で、送迎・入浴・食事・排泄等の支援と、日常生活における自己決定・意思決定のための相談援助を担当しています。



① 座右の銘・好きな言葉

～春風を以て人に接し、秋霜を以て自ら肅む～

高校の恩師が当時傷ついた私に下さった言葉です。

「他人に優しく自分に厳しく」という諫めだけでなく、「自分に厳しくしていれば本当の和やかさで他人に接する事ができる」という意味合いも含まれているとのこと。今でも大切にしている言葉のひとつです。

② 社会福祉士を志した理由

大学卒業から約20年間、建設業界で公共事業の設計・監督を担当していたのですが、平成26年11月10日、過重労働により職場で倒れ、ドクターヘリで緊急搬送されました。それから約2ヶ月間の入院治療、その後約2年間におよぶ通院とリハビリ、リワークプログラムへの継続参加、傷病手当や自立支援などの社会保険制度の相談、さらには疾患や生活・将来への不安の対処に至るまで、親身になって支えてくださった担当のソーシャルワーカーの多大な力に大きな感銘を受けました。お陰さまで拾い得た残りの人生、私もソーシャルワーカーとして微力ながらもお役に立ちたいと強く思い、社会福祉士を志しました。

③ 社会福祉士の意気込みや抱負

時代は、『ソーシャルインクルージョン』。理想郷の言葉ではなく『共生社会』という名において実現化されつつある中、その障壁となるものは何なのか、専門職として障壁を見つけ、対峙し、乗り越えるための知識・技術・ネットワークを構築し、『共生社会』の中で幸せを追求していきたいです。

④ 社会福祉士会に期待すること

各分野の諸先輩方がこれまで培ってこられた宝のような実践の数々を、懸命に継承させていただきます。自己覚知・自己研鑽のため、ご指導・ご鞭撻を宜しく願います。

☆長野県社会福祉士会への入会をお待ちしております！

社会福祉士会は社会福祉分野のみならず、医療、教育、行政等さまざまなところで活躍されている方が多くいらっしゃいます。

未入会の社会福祉士の方は、入会を通じてご自身のスキルアップやネットワークを広げてみませんか？

*入会をご希望の方は、長野県社会福祉士会または日本社会福祉士会までご連絡ください。

東信地区学習会

「高齢・障害分野をつなぐ“共生型サービス”を学ぶ」

去る5月26日に、「共生社会の実現に向けて求められる支援者の役割について」の勉強会に参加させていただきました。参加者は、高齢者施設に勤めている方、障がい者施設に勤めている方が中心で、やはり関心の高さがうかがえました。



実際、私自身も障がい者支援施設に勤めており、今まさに介護保険への移行といった課題を抱えているため、とても興味を持って参加させていただきました。

実際の共生型サービスの概要をはじめとした説明の中で、この業界の人材不足も一つの要因になっていると感じました。そうであればなおさらですが、現場の支援体制づくりやスキルアップにどれだけ力が注げるのか、また、制度の理解に留まらず、具体的に社会福祉士として何をすべきなのか、いろいろ考えることができました。

今現在は、なかなか事例としてシェアできませんが、今後、社会福祉士会の中でも共生型についても追っていけると良いと感じました。 東信地区 福祉活動委員 早水 卓也 (佐久学舎 アシストこまば)



リレーエッセイ～リレー形式の寄稿～

「つながる～人と人～」

飯島町社会福祉協議会 下平 靖 恵

先日、ある人を訪ねて初めての場所へ行きました。だいたいこの辺りという事は聞いて行ったものの、同じようなハウスが並んだその場所で、私は困ってしまいました。とりあえず車を停めて近くのハウスに居た女性に尋ねると、親切に連れて行って探していた方に会わせてくださいました。お陰さまで用事を済ませ、帰り際に女性にお礼を言うと「花を持って行く?」と言って、つくっておられる素敵なカーネーションをくださいました。少し話を伺うと、ある福祉事業所にも協力しておられ、今後お願いすれば私たちのB型就労事業所にも協力していただけるとの事。たくさんの感謝の気持ちとつながる大切さを感じ、うれしくなって帰ってきました。

社会福祉士となって四半世紀。今、振り返るとたくさんの方に助けられ、支えられてきたなあと改めて感じます。たくさんの方とつながる事ができていることに感謝、感謝です。これからも社会福祉士として、1人の地域住民として、たくさんの方たちとつながっていけたらと思います。そして、先日の女性のような、何気ない行動で人をほっこりできる人間になれたらと思います。

*次号は、親愛の里 長野エリアマネージャー 畔上 浩一 さんにバトンタッチします。

今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ (<http://nacs.jp>) をご覧ください。

日時(曜日)	事業名・研修名	会場	備考
7月28日(土)	『ソーシャルワーカーの使命・役割』を考えるフォーラム	長野大学	講師：市川一宏氏
7月28日(土)	成年後見人材育成研修(第1回)	なんなんひろば	②7/29 ③9/8 ④9/9
8月22日(水)	意思決定支援を考える専門職向け研修	長野市東部文化ホール	講師：上山 泰氏

◎ 入会状況(平成30年5月末現在) * 会員数：1,153人 入会率：29.60% 人口10万人あたりの会員数：55.54人

編集後記

新年度がスタートして3ヶ月が経ちました。私は4月の人事異動で、税務課から地域包括支援センターに異動になりました。日々、高齢者世帯の生活相談(虐待対応や認知症相談)に対して、社会福祉士およびケースワーカーとして何が出来るか、またその人、その家族にとって最善な支援は何かを保健師やケアマネジャーと一緒に考えて取り組んでいます。しかし、現状として地域共生社会に向けては多職種連携など課題が山積しています。

今後も、社会福祉士として何が求められているかを考えて専門性を発揮できるよう、目の前の仕事に取り組もうと思います。 (R・M)